

## 学生との交流・動物園

芦田 彩希

日が経つにつれて気温が氷点下になることが当たり前になってきました。11月半ばには初雪も降り、寒さに体調を崩す人もいました。

月初めに日本語サークルの新入生歓迎会があり、日本人留学生数人で参加してきました。山西大学の学生たちは積極的に私たちに話しかけてくれ、仲良くなった2年生の日本語の上手さに驚きました。今まで話したことのある中国人やほかの外国人は、日本といえば東京しか知らない人たちがほとんどでした。しかし、日本語学科の生徒たちは埼玉県のことを知っていてとても有名だよと言っていました。次の週のサークルにも参加したところ、日本語学科ではない生徒が大半を占めており、どうして日本語に興味があるのか質問してみると「日本のアニメが好き」、「好听(聞いて気持ちが良い)」と答えてくれました。私は日本語学科以外の生徒たちが日本に興味があるとはあまり思っていなかったのが驚きました。仲良くなった日本語学科の生徒を昼食に誘い、お互い習っている言語でお喋りをしました。中国人は気さくな人たちが多く、昼食後には友達カラオケに行っているから来る？と誘ってくれました。日本の歌をうたっている生徒もいて、お互いの国の有名な歌手などを教えあいました。

その週末に、太原に動物園があると聞いたので行き方を教えてもらい太原動物園(太原動物園)に行きました。学校からバスを乗り換え約1時間のところに位置し、面積は約79ヘクタールありとても広く、すべてまわるのに2時間以上かかりました。日本の動物園ではなかなか見られないラクダや、アルパカがいたり、小さな遊園地もありました。中国といえばパンダという印象が強かったので、動物園の飼育員さんにいるか聞いたところ、いるというような返事だったのですがいなくてとても残念でした。この時にまだしっかりと返事を聞き取れなかったのだなと中国語の難しさを実感しました。中国での生活も3か月過ぎ、周りの会話もだんだんとわかるようになってきたと実感した一方で、まだまだ分からないことだらけだと思いました。授業だけでなく実際に中国人との会話をしていこうと思いました。

・ 初雪の様子



・ 動物園のラクダ

